

慮すればよく、必ずしも甲の高さは必要ないことが示唆された。

GB21[センターB]

8月27日

10:36

発27-004

幼児期の体力特性は児童期にどの程度トラッキングするのか？ 女兒における年長時と小学6年時の比較検討

○川崎 未貴（岐阜大学大学院）

春日 晃章（岐阜大学）

本研究は、女兒における年長時と小学6年時の体力特性に関するトラッキングの程度を検討することを目的とした。対象は女兒39名であり、年長時には7種目（立ち幅跳び、体支持持続時間、長座体前屈、25m走、ソフトボール投げ、反復横跳び、握力）を、小学6年時には8種目（立ち幅跳び、体支持持続時間、長座体前屈、50m走、ソフトボール投げ、反復横跳び、握力、シャトルラン）を行った。これらのデータを基に、全てのテストに関して、年長時は月齢が体力特性に大きな影響を与えるため、誕生月が4月から9月と10月から3月までに区分し、小学6年時は学年内でそれぞれのTスコアを算出し、代表値とした。また全種目の平均Tスコアを体力総合点とした。分析の結果、年長時と小学6年時の走力、柔軟性、筋力および体力総合点において有意な相関関係が認められ、トラッキングの程度の大きさが示唆された（走力： $r=0.496$ 、柔軟性： $r=0.581$ 、筋力： $r=0.630$ 、体力総合点： $r=0.527$ ）。一方、跳力、投力、筋持久力および敏捷性においては有意な相関関係が認められなかった。以上のことから、走力、柔軟性および筋力は幼児期の体力特性が児童期に大きく影響を与えていると推察された。

GB21[センターB]

8月27日

10:48

発27-005

屋外及び屋内体育遊びにおける幼児の運動経験の比較 5歳児クラスを対象として

○細川 賢司（関西学院大学大学院）

幼児の継続的な身体活動量、運動能力の低下が示される中、保育活動中の運動経験は幼児の運動技能学習にとって重要な基盤となっている。最近では専門指導員による体育遊びを行う施設も増加しており、運動能力の向上に有効な体育遊びプログラムの開発も盛んに行われているが、実際の体育遊び中における幼児の運動経験を詳細に調査した研究は少ない。そこで本研究は、屋外及び屋内体育遊び中の歩数、動作回数、動作種類数を測定、比較検討することで、体育遊び中における幼児の運動経験の実態を明らかにすることを目的とした。調査協力施設は屋外体育遊びの場面を調査したA園（5歳男子13名、女子12名）、屋内体育遊びの場面を調査したB園（5歳男子19名、女子19名）の2園であり、1回あたり45分間の調査を計8回行った。調査は園庭全体が撮影できるよう複数のビデオカメラを設置し、得られた動画から、動作回数及び動作種類数を分析した。また、幼児には歩数計を腰部に装着し、体育遊び中の歩数を記録した。体育遊びはいずれの園も専門の指導員が行った。今回は屋外体育遊び及び屋内体育遊び中の歩数、動作回数、動作種類数について比較分析した結果を報告する。

GB21[センターB]

8月27日

11:00

発27-006

幼児における足指と立位姿勢の安定性について

○田中 瑛（びわこ成蹊スポーツ大学大学院）

新宅 幸憲（びわこ成蹊スポーツ大学）

近年、扁平足や浮き指、外反母趾など、足部に問題を有する子どもが増加をしている。その要因として、運動能力の低下、利便性の高い生活様式、履物の変化があげられる。そこで本研究では、幼児において足指機能が立位姿勢の安定性にどのような関連性を示しているのかについて分析を行った。対象は、K幼稚園の年長児68名（男児40名、女児28名、年齢 5.7 ± 0.4 歳、身長 114.9 ± 5.5 cm、体重 19.9 ± 3.1 kg）であった。足底面の接地面積は、フットルック（KK）製の

発